



第4回日中韓合同シンポジウムの概要

福田 竜一

1. はじめに

農林水産政策研究所では、中国農業科学院農業経済発展研究所（IAED/CAAS）および韓国農村経済研究院（KREI）との研究協力を進めており、その一環として、2006年9月5日、ソウル市において、北東アジア農政研究フォーラム（Forum for Agricultural Policy Research in North East Asia）主催の第4回国際シンポジウムを開催した。（フォーラムの詳細については、北東アジア農政研究フォーラムホームページ（<http://www.fanea.org/>）または農林水産政策研究所ホームページ（<http://www.primaff.affrc.go.jp/>）にアクセスされたい。）

今回のシンポジウムには、日本から当研究所の小西所長、渡部次長、吉田主任研究官、吉井邦恒研究室長、樋口研究員および福田研究員の他、(独)国際農林水産業研究センターの多田国際開発領域長が参加した。統一テーマは「経済移行下における北東アジア農業



——フォーラムの様子——

(Northeast Asian Agriculture under Economic Transition)」とされ、グローバル経済化や貿易の自由化が進む中で参加各国が抱える農業・農村問題について最近の研究成果の報告と討論が行われた。

シンポジウムでは、各報告に先立って、前駐アルゼンチン大使で現在プサン国立大学教授を務めているCHOE Yang-Boo博士から「農の想像力と 21 世紀における農科学者の新たな挑戦」と題する基調講演が行われた。その中で博士は、自然科学と社会科学の相互の知識を必須とする学問としての農学的重要性を訴えながら、北東アジアにおける人口密集や急激な経済成長による社会のひずみの拡大、農村社会的秩序と工業社会的秩序の併存による諸問題の発生を解決する上で農科学者（Agroscientists, CHOE博士の造語）の知見が極めて重要であり、本フォーラムで取り組まれているような日中韓の農科学者による協力が重要であることを指摘した。

2. シンポジウムの概要

今回のシンポジウムでは3つのセッションが設定された。各セッションでは3カ国の研究者の研究成果報告の後、あらかじめ指名された討議者およびフロアーを交えて議論が行われた。各セッションの報告概要は以下のとおりであった。

（1）第1セッション「北東アジアにおける近年の農政改革」

○中国の農地所有制度：改革と検討：XIA Ying (IAED/CAAS)

本報告では、中国の現行農地所有システムにおける諸問題を指摘し、農業生産を効率化するためには、農地の利用集積を促進することが重要であること、それを促す外的要因が整いつつあること、現行農地所有制度の改革に当たっては農地の財産権の定義が重要であること等を指摘した。近年中国は経済社会が大きく変化してきており、農政そのものの改革を求める声が大きくなっているが、当面、農地所有システムの改革は喫緊の課題であると結論づけた。

○新たな品目横断的経営安定対策の導入と研究課題：吉井邦恒 (PRIMAFF)

本報告では、我が国の品目横断的経営安定対策導入の背景、生産条件不利補正対策及び収入減少影響緩和対策の概要を紹介するとともに、アメリカ等における直接支払い制度の問題点として、大規模農家への助成の集中、地価・地代の上昇等があることを説明した。

○韓国における農業政策の最近の変化：PARK Seong-Jae (KREI)

本報告では、1980年代末以降の韓国農業の変遷と歴代政権の農業政策の基本的特徴を提示した。近年UR農業対策等が進められる中で、政府主導の農村投資が増大した結果、農業生産力は増加したものの、1997年の通貨危機による消費面での影響、農産物市場の一層の開放等により、農産物価格は低迷し、農家負債問題等が発生し、農政に対する農家の不信が増大していると指摘した。

（２）第２セッション 「FTAが北東アジア農業にもたらす含意」

○日中韓の農業貿易に関する研究：LIU Xiaohe (IAEDE/CAAS)

LIU報告では、日中韓の３か国の貿易パターンを分析して各国の特徴点を明らかにした上で、GTAPモデルを用いて３か国間FTA締結の経済的影響について予測した。日中韓、中韓、日韓のFTAのそれぞれの締結効果をみると、シナリオ別では日中韓の締結効果が最も大きく、韓国は日中韓のFTAが締結された場合、３カ国の中で最も大きな利益を得ること等を指摘した。

○協力ゲーム理論によるFTAの経済分析—米豪FTAの場合：福田竜一 (PRIMAFF)

福田報告では、ゲーム理論による交渉の合意条件の理論的分析を行い、関税交渉によって完全な自由貿易は達成される可能性はあるが、そうならない場合があることを指摘した。また、米豪FTAの協定のもたらす経済的影響についてGTAPモデルを用いて計測した結果、特に砂糖を協定から除外するというオーストラリアの妥協によって、オーストラリアが逸した利益が大きかったことを分析した。

○韓米FTAの韓国牛肉市場に与える影響：KIM Yun-Shik (KREI)

KIM報告では、交渉中の韓米FTAが韓国内の牛肉市場に与える影響について部分均衡分析により推計した。国産牛肉の需要関数は国産牛肉、豚肉、鶏肉の価格に加えて、輸入牛肉と国産の異質性を考慮し、アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド産の輸入牛肉のそれぞれの価格にも影響を与えると仮定し、需要関数のパラメーターを計測した上で、アメリカ産牛肉の輸入関税撤廃に相当する価格下落が起きた場合の影響を分析した。その結果、牛肉の関税撤廃によって国内の牛肉価格は11.5%、生産量は5.6%それぞれ低下するとともに、国内の生産額約240億ドルが約39億ドル(16.5%)減少するとの結論を得た。なお、財の同質性を前提条件とした場合牛肉の生産減少額は78億ドルとなるが、これは過大推計であると指摘した。

（３）第３セッション「最近における農業及び農村発展に関する問題の発生」

○中国の新農村建設と日韓の農村開発の経験：LI Xiande (IAED/CAAS)

LI報告では、2006年から中国において、都市農村格差是正のために導入された新しい農村支援政策である「新農村建設」の背景と特徴を、日韓の農村開発政策の経験と比較しながら紹介した。新農村建設は2006年度の中国政府にとって最重要な問題だけではなく、今後10年もしくはそれ以上先に渡る中国農村の中心課題であるとして、農村と都市の格差問題と中国の経済的なキャパシティという２つの側面から新農村建設の概念の背景を分析した。また、1960年代における日本と1970年代における韓国の農村発展の経験と比較しながら、中国の農村開発についても言及した。

○原油価格高騰が日本の農漁業・食品産業へ与える影響の評価：吉田泰治 (PRIMAFF)

吉田報告では、最近の原油の国際価格高騰が、日本の農漁業・食品産業へ与える影響を、産業連関分析の均衡価格モデルを使って、マクロ経済面から評価した。水産業などいくつか影響の大きい部門があるものの、20年前の第２次オイルショック時と比較すると、電

力をはじめ、日本経済の石油依存度は全般的に低下しており、現時点では当時ほどの大きな影響は計測されなかったと報告した。

○原油価格高騰が韓国の施設園芸に与える影響：LEE Yong-Sun (KREI)

LEE報告では、最近の原油国際価格高騰が韓国の施設園芸に与える影響をミクロ供給関数で分析した。施設野菜の品目別にみると、エネルギー依存度の高い品目とそうでない品目があり、施設園芸全般については影響が大きく、エネルギー依存度の高い品目については生産が減少すると予測する一方、エネルギー依存度の低い品目では高い品目からの生産のシフトによって、生産が増加すると予測されるものもあると指摘した。

3. おわりに

2003 年以来日中韓持ち回り開催してきた国際シンポジウムは二巡目に入ったが、この間にも北東アジアの農業・農村を巡る情勢は大きく変化してきた。

引き続き中国経済の台頭はめざましく、我々の関心も中国の経済発展の光の側面にとられがちである。しかし中国の研究者の報告を聞いていると、経済発展の影の側面に対する彼らの問題意識が極めて強いことが感じとられた。農業は経済発展から取り残されつつある農村問題と密接に関係している。中国の農業経済研究者はいかに中国の都市農村格差を是正していくのかという困難な問題の解決に取り組んでいる。

一方、韓国経済は 10 年前の通貨危機から立ち直り、復活を果たしたが、なお農業・農村を巡る状況は厳しい。農産物価格の下落と農家負債問題は深刻化しており、農家経済はむしろ悪化している。最近では FTA 交渉の進展により農業・農村へのさらなる打撃が予想され、その対策が重要となっている。

日中韓 3 カ国が共有しうる農業問題も決して少なくない。例えば、最近の原油価格の高騰は問題意識を共有できる大きな問題の 1 つになるかもしれない、エネルギーの効率的利用を実現している日本の技術に対する期待は大きい。また我が国が導入する直接支払制度について中韓両国の関心は高く、農業問題対策への切り札の 1 つとしての農家所得補償政策について、研究交流や情報交換を行い、共通の問題意識を醸成していくことも肝要であろう。こうした中で、日中韓の我々 3 研究機関の研究者が毎年この国際シンポジウムに集い、研究成果を報告・議論することは意義が深く、今後とも継続・発展させていく必要があると感じる。